

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	27人	算数	27人	理科	27人
第5学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人

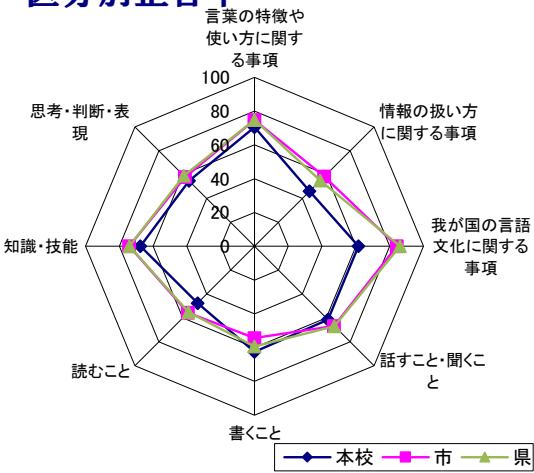
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.5	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	46.2	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	61.5	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	61.5	66.7	66.9
	書くこと	62.5	54.3	59.3
	読むこと	47.6	55.6	55.2
観点	知識・技能	67.5	74.1	74.0
	思考・判断・表現	54.8	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

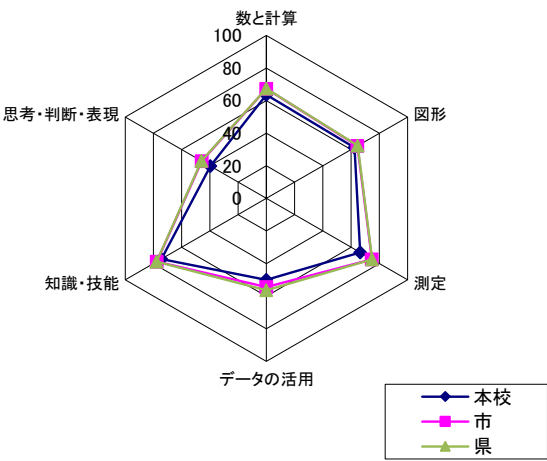
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○「庭」「決める」など普段からよく使う言葉については、漢字の読み書きがよく身についている。 ●「短い」のように送り仮名をつける漢字については、正しい送り仮名が書けていない。	・漢字の読み書きは、朝の学習や宿題などで繰り返し練習するほかに、日常生活の中で習った漢字を使う取り組みが成果として表れていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・送り仮名のある漢字については、間違い直しを確実にを行い、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●国語辞典の例文の中から文脈に合う適切な意味を見つけることができない。	・引き続き国語辞典を活用する機会を設ける。 ・国語辞典を活用するときは、例文の中から文脈に合った意味を選ぶことができるように指導する。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●漢字の「へん」や「つくり」を理解できていない。	・引き続き、新出漢字の学習や朝の学習などで「へん」や「つくり」について触れる機会を設け、定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○話し合いにおいて、自分の考えを理由をあげながら話すことができています。 ●話し合いにおいて、参加者の発言をもとに考えをまとめるという司会者の役割が身に付いていない。	・引き続き、話し合いの場を積極的に設け、話し方や聞き方を指導する。 ・授業の中で、他の人に分かるように理由を説明したり、他の人の考えに対して自分はどう思うかを話したりする活動を設け、課題に合った答え方を身に付けていく。 ・話し合い活動の中で、司会の役割を経験させる機会を多く作る。
書くこと	平均正答率は市の平均より高い。 ○自分の考えを明確にして文章を書くことについては、市の平均より16ポイント上回っており、よく身に付いている。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして書くことができています。	・引き続き、学習や行事の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多くとる。 ・引き続き、朝の学習の時間に共通の課題を提示し、課題に対する自分の考えや理由を書く作文の時間を設ける。
読むこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○物語文では、登場人物の気持ちや行動の理由を叙述を基に読み取ることが比較的よくできている。 ●説明文では、叙述を基に段落の内容を読み取ることが身に付いていない。	・学年に応じた音読の取り組み方を工夫し、目で文章を追ったり、短時間に集中して読んだりする力をつけさせる。 ・引き続き、読書に親しむ態度を育てる。読書の幅を広げ、物語だけでなくいろいろな分野の本を読めるようにする。 ・説明文では、段落のまとまりを理解し、その関係性を考える活動を十分に行うようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.6	67.3	67.4
	図形	62.3	64.5	64.7
	測定	66.4	74.7	74.9
	データの活用	50.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	74.4	77.6	77.8
	思考・判断・表現	39.6	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

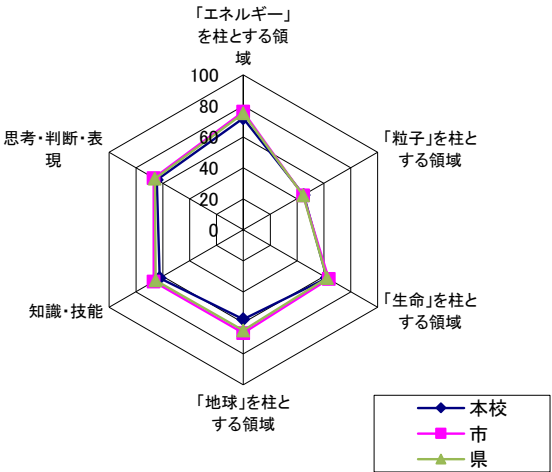
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○小数のしくみに関する設問や、分数の計算では、市の平均より高い。 ●式の意味を正しく捉え、言葉で説明する設問では、市の平均より正答率が低い。乗法の式の意味を正しく捉えることが難しかったと考えられる。	・日頃から朝の学習や家庭学習などを活用し、繰り返し問題に取り組んでいる成果が表れている。今後とも取組を継続していく。 ・文章問題から立式するにあたり、数字や言葉だけで簡単に式を立てることがないようにする。授業の中でできるだけ具体物を用いて、問題の場面をイメージする力を養っていく。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○二等辺三角形の作図についても、市の平均と同じである。作図の方法を理解し、定規やコンパスを使い、正しく作図することができている。 ●円や球の半径や直径についての理解は、市の平均より低い。	・円や球の学習では、半径や直径などの用語の意味を確認し、確実な定着を図る。
測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ●時間が経過する前の時刻を求める設問では、市の平均より低い。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える設問や、身近な物の重さについておよその見当をつける設問は、市の平均より低く、定着が不十分である。	・重さの学習では、授業に体験的な学習を取り入れ、日常生活と関連付けて理解が図れるように指導を行っていく。児童自身が実際に具体物を手に持ち、重さを実感しながら測定する活動を取り入れ、重さの感覚を身に付けられるよう指導する。その際、1目盛りの大きさの異なる様々なはかりを用いて重さを図るなど、目盛りの読み方の習熟を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ○2つの棒グラフで、1目盛りの数が異なることに注意しながら棒グラフを読み取る設問では、正答率が市の平均より高い。	・グラフの値の読み取りでは、1目盛りの大きさが1以外の様々なグラフの読み取りや、2つのグラフを比較する問題に、引き続き取り組ませるようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	44.9	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	62.2	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	57.7	66.6	64.9
観点	知識・技能	62.4	66.8	65.4
	思考・判断・表現	64.5	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○糸をつまんだときの声の伝わり方についてあてはまる内容を答える設問では、正答率は80.8%で市の平均を8.6ポイント上回っている。 ●電気を通す性質があるものの名称を答える設問では、正答率は38.5%で市の平均を25.7ポイント下回っている。	・電気を通すもの通さないや、磁石につくものつかないものの、基本的な知識は定着は見られるが、活用するまでにはいたっていないため、実験や観察で分かった部分を問題に応用する場面を意図的に設定する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じ。 ○同じ種類の木でできている積み木を答える設問では、正答率が80.8%で市の平均を2.1%上回っている。 ●姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選び選んだ理由を答える設問では、市の平均を1.5ポイント上回っているものの、正答率が11.5%と低い。	・記述ができていない児童が多いため、授業の中で文章を書く機会を多く設け、キーワードを示しながら自分の言葉で書くことができるようにする。 ・スマイルネクストドリルなどを用いて、理科に関する基礎・基本の知識の定着を図るようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○クモが昆虫ではない理由を答える設問では、正答率が88.5%で市の平均を17.8ポイント上回っている。 ●植物の体のつくりの共通点を選ぶ設問では、正答率が65.4%で市の平均を19.0ポイント下回っている。 ●虫眼鏡の正しい使い方を選ぶ設問では、正答率	・日頃から理由を説明したり、書いたりする学習活動を多く取り入れるようにする。 ・観察する際の見るべき視点を示しながら、身近にいる昆虫の生態や昆虫のからだのつくりについて再度注目させることで、知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○温度計の使い方を選ぶ設問では、平均正答率が80.8%で市の平均を5.7ポイント上回っている。	・実験内容と生活場面を関連させるような課題を設定し、実際に実験を行い、知識の定着を図るとともに理解を深められるようにする。 ・映像資料や実験、観察を通して、太陽の動き方と影の向きの動き方を比較することで、太陽の動き方の知識を整理して捉えられるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問に対し、全ての回答が肯定的であり、県の平均を上回っている。また、「次の教科の学習は、将来のために大切だと思いますか」の質問に対しても、全ての教科について肯定的回答の割合が多く、「はい」と答えた児童の割合は、全て県の平均を上回っている。学習は将来に大切だという意識は高く、前向きに取り組みたいという気持ちをもつ児童が多いことが分かった。今後も、児童の学習意欲を高めて学習に取り組めるように指導するとともに、生活の中でどのように活用できるかについても触れていきながら、達成感を味わうことができるよう指導をしていく。

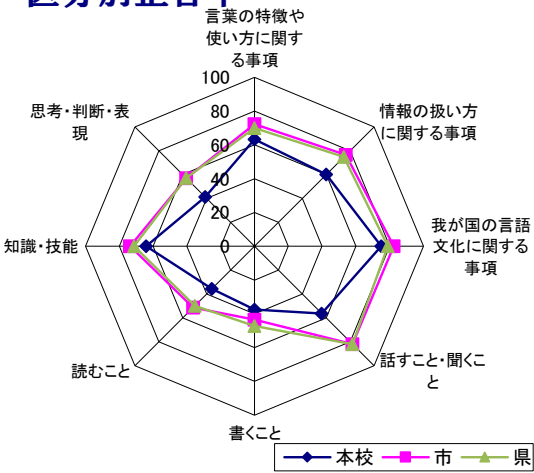
○「1か月に、何冊くらい本を読みますか。(教科書、漫画、雑誌は除く)」の質問に対し、「11冊以上」の回答が34.6%と、県の平均を10ポイント近く上回っている。日常的に読書に慣れ親しんでいる児童が比較的多いことが分かった。「1冊も読まない」児童も含め、「1～2冊」「3～4冊」「5～10冊」の回答する児童も満遍なく分布しており、回答結果と各教科の得点率をクロス集計すると、読書量が多い児童ほど、国語だけでなく、どの教科の平均得点も高くなる傾向にあることが分かった。司書と連携をしながら、それぞれの授業での学校図書館の積極的な利用を行い、本に触れる機会を増やしていきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の質問と、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の質問に対して肯定的回答の割合は、市の平均を下回っている。地域や社会で起きている問題や出来事に関心をもたせることが必要である。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	63.3	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	60.0	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	75.0	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	56.3	81.9	82.0
	書くこと	37.5	43.5	47.2
	読むこと	35.6	51.4	49.8
観点	知識・技能	64.1	73.6	71.3
	思考・判断・表現	41.3	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

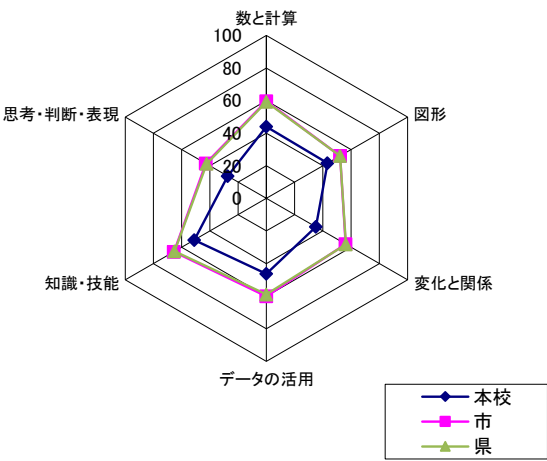
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○漢字の読みはよく身に付いている。 ●漢字の書きは定着していない。無回答も多い。	・漢字の読み書きは、朝の学習や宿題などで繰り返し練習するほかに、日常生活の中で習った漢字を使う取り組みが成果として表れていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・間違えた漢字については、間違いなおしを確実にを行い、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●漢字辞典の使い方が身に付いていない。	・引き続き漢字辞典や国語辞典を活用する機会を設ける。 ・漢字辞典を使うときには、総画索引や部首索引など、いろいろな調べ方ができるように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現の中に生かすことが比較的できている。	・引き続き、朝の学習や自主学習等でことわざに触れる機会を増やすとともに、教師側が意識的に会話の中にことわざを入れるようにし、さらなる定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○話し合いにおいて、話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることは比較的よくできている。 ●話し合いにおいて、意見の共通点に着目して考えをまとめるという司会者の役割が身に付いていない。	・引き続き、話し合いの場を積極的に設け、話し方や聞き方を指導する。 ・授業の中で、他の人に分かるように理由を説明したり、他の人の考えに対して自分はどう思うかを話したりする活動を設け、課題に合った答え方を身に付けていく。 ・話し合い活動の中で、司会の役割を経験させる機会を多く作る。
書くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○アンケートから読み取った事実を文章に書くことができた児童が市の平均を上回った。 ●指定された行数や段落構成などの条件を守って、制限時間内に書く力が身に付いていない。	・学習や行事の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多く設ける。 ・朝の学習の時間に共通の課題を提示し、課題に対する自分の考えや理由を書く作文の時間を設ける。
読むこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○物語文では、登場人物の気持ちや行動の理由を叙述を基に読み取ることが比較的よくできている。 ●説明文では、叙述を基に段落の内容を読み取ることが身に付いていない。	・物語文では、場面ごとのまとまりを理解させ、人物の心情や情景を追うことで、物語全体の構成を捉えられるようにする。 ・引き続き、読書に親しむ態度を育てる。読書の幅を広げ、物語だけでなくいろいろな分野の本を読めるようにする。 ・説明文では、段落のまとまりを理解し、その関係性を考える活動を十分に行うようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	44.0	59.7	59.2
	図形	43.3	52.1	52.1
	変化と関係	35.0	56.1	56.3
	データの活用	46.3	60.1	58.9
観点	知識・技能	51.1	65.5	65.1
	思考・判断・表現	27.5	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

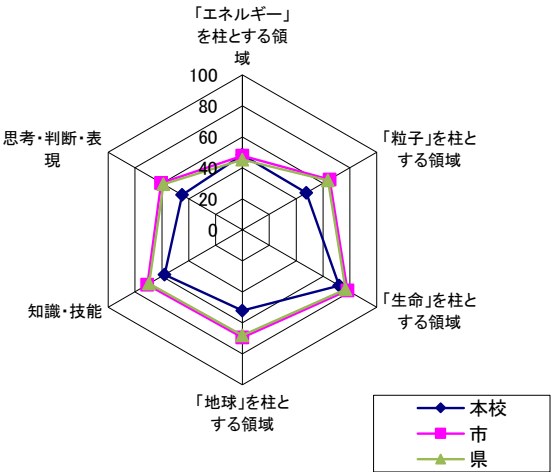
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○小数のしくみを理解し、小数の基本的な計算をすることができており、正答率は市の平均とほぼ同じである。 ●概数について理解し、目的に応じて見積もる設問では、正答率が市の平均より低く、理解が不十分であると言える。 ●四則混合の式の計算の順序を考える設問では、正答率が市の平均より低い。 ●小数の加法の計算の仕方を説明する設問では、市の平均より低い。	・朝の学習や家庭学習などを活用し、日頃から加減乗除の計算問題や文章題に繰り返し取り組んでいるが、確実な定着のためにも、今後も取り組みを強化して継続していく。 ・概数の問題では、上からある桁までの概数や位を示した概数など条件に合わせて概数にする仕方を復習すると共に、以上、以下、未満などの用語の意味を復習し、同様の問題に取り組むことで定着を図る。 ・四則混合の計算では、()がある場合や加減乗除が混合する場合などの計算順序について復習すると共に、既習の計算法則を○や△などを用いた式で表せるようにして理解を深めていく。 ・何を問われているのか正しく読み取り、言葉や式を使って説明する機会を多く設ける。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○ひし形を作図する設問では、正答率が市の平均より高い。 ●面積の単位の関係を説明する設問は、正答率が平均より低く、理解が不十分である。	・図形の作図の学習では、与えられた1辺の続きを作図するような条件のある作図に取り組ませてきた成果が表れてきた。 ・面積を求める問題では、単に面積の公式を覚えるだけでなく、広さを直接比較するなど具体的な活動を取り入れ、広さについての感覚を豊かにするように指導を行う。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ●伴って変わる2つの数量の関係についてわかることを説明する設問では、正答率が市の平均より低い。	・伴って変わる2つの数量から、もう一方の値を求める問題では、様々な問題場面を取り上げ、数の変化を表にまとめていくことを通して、2つの数の変わり方に気付けるように指導をしていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る設問は、正答率が市の平均と同じである。 ●二次元の表の読み方についての設問は、正答率が市の平均より低く、理解が不十分である。	・二次元表の学習では、数値の読み取りだけでなく、2つの観点から起こり得る場合を正確に理解できるように指導を行っていく。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	48.3	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	47.7	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	72.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	52.1	69.5	68.1
観点	知識・技能	58.0	70.8	69.5
	思考・判断・表現	45.0	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○並列つなぎの名称を答える設問では、正答率が60.0%で市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●電流が大きくなる回路を選ぶ設問では、正答率が50.0%で市の平均を8.4ポイント下回っている。	・乾電池2個のつなぎ方や、流れる電流の大きさが変わるとモーターの速さが変わることを実験を通して理解を図れるようにする。実験では、観察する視点を明確にして行うようにする。また、実験の過程を、問題→予想→実験方法→結果→まとめの順に整理して振り返る機会を設定する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●夏に線路のレールのつなぎ目がない理由を金属の体積の変化に着目して答える設問では、正答率が35.0%で市の平均を27.4ポイント下回っている。 ●氷がもりあがる理由を答える設問では、正答率が35.0%で市の平均を27.4ポイント下回っている。	・授業で行った実験の結果を知識として定着させるとともに、得た知識を活用して考える場面を大切に扱っていく。 ・金属は熱すると体積が大きくなり、冷やすと体積が小さくなる性質を確認する。また、生活場面の中から線路の金属を取り上げ、関連付けて考えることで、理解を深められるようにする。 ・水は温度によって、氷、水、水蒸気と変化することや、水が氷になると体積が増加することを、生活場面を想起しながら確認させる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○春や夏のころの気温や動物のようすを選ぶ設問では、正答率が85.0%で市の平均を1.1ポイント上回っている。 ●腕を曲げた時の筋肉のようすを選ぶ設問では、正答率が65.0%で市の平均を9.6ポイント下回っている。	・重いものを持つと筋肉が固くなることを想起させ、筋肉が縮むことで固くなるということを、日常的な体験と関連付けて捉えられるようにする。また、曲がるときと、伸ばすときを対比させることで、内側と外側の筋肉が同時に異なる動きをしていることを意識させるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○排水溝が作られているところはどこになっているか答える設問では、正答率が50.0%で市の平均を10.9ポイント上回っている。 ●数時間後の星のならば方と見える位置について正しい文章を選ぶ設問では、正答率が50.0%で市の平均を36.0ポイント下回っている。	・スマイルネクストドリルなどを用いて、理科に関する基礎・基本の知識の定着を図れるようにしていく。 ・映像資料や観察を通して、太陽や月の動き方や形の変化と、星が並び方を変えないで動いていることを比較することで、知識を整理して捉えられるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」と回答した児童の割合は95%、85%であり、県の平均よりそれぞれ13.4ポイント、0.9ポイント高い。新しい知識を得たり、できたときの達成感を味わったりすることに喜びを感じている児童が多いことが考えられる。	
●「家で、学校の授業の復習をしている。」、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」と回答した児童の割合は30%、45%であり、県の平均よりそれぞれ35.3ポイント、30.1ポイント低い。学校や家庭での学習に意欲的でない児童が多いことが分かる。児童が興味をもてるような授業を心掛けるとともに、スモールステップで取り組めるよう課題を工夫していきたい。また、家庭学習のやり方やよさについて便り等で保護者に知らせ、家庭と連携していきたい。	
○「将来の夢や目標をもっている。」、「家の人と将来のことについて話すことがある。」と回答した児童の割合は90%、80%で、県の平均よりそれぞれ2.6ポイント、14.6ポイント高かった。また、「自分は家族の大切な一員だと思う。」と回答した児童の割合は100%で、県の平均より7.1ポイント高かった。家族を大切に、思いやりをもって生活していることがうかがえる。また、将来の夢や目標についても、家族で話題に上がっていることから、今後もキャリア教育を重視した取組を行いつつ家庭へも発信していきたい。	
●「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」、「時間を上手に使うことを心掛けている。」と回答した児童の割合は70%、55%で、県の平均よりそれぞれ23.4ポイント、22.9ポイント低かった。学校生活や家庭生活において時間を有効に使えるよう意識した声掛けを行っていくとともに、高学年としての学校での役割や仕事の意義を考えさせながら、仕事に取り組めるようにしていきたい。また、「家の人と学習について話をしている。」と回答した児童の割合は55%で、県の平均より21.1ポイント低かった。家庭学習強化週間において、家庭学習の取組を紹介したり、保護者から賞賛のコメントを頂く場を設定したりすることで、学習への関心を高めていきたい。	
○「教科の学習は、将来大切だと思いますか。」では、質問された全ての教科(国語・社会・算数・理科・総合的な学習の時間)において肯定的回答をした児童の割合が90%以上だった。今後も、各教科を学習する意義を児童に感じさせることができる授業を大切にしてい。また、授業後にも、興味・関心が生まれるような探究的な学習を取り入れ、児童の学ぶ意欲を高めていきたい。	

宇都宮市立田原西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自らの思いを表出し、学び合う楽しさを味わう児童を育成する。 ・家庭学習の推奨	・タブレットや思考ツールを活用して思考の可視化を図り、自分の考えを明確にして話し合いができるよう取り組んでいる。 ・年度始めに家庭学習メニューを配付し、自主学習ノートの秀作を掲示したり、家庭学習強化週間を年4回実施したりして、家庭への啓発を図っている。	・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的割合が市や県よりも高い。 ・「家で自分で計画を立てて勉強している。」の肯定的割合が県の平均より低い、「学校の宿題は自分のためになっている。」の肯定的割合は4年生は100%、5年生は90%と高く、家庭学習の大切さは実感できている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・4年生では算数、5年生では、国語、算数、理科において、記述式の問題の正答率が県の平均を下回っている。無回答率が県より多く、自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多く見られる。	・全教科において、感想や振り返りだけでなく、分かったことや自分の考え等を記述する場を意図的に設け、思いを言語化できるようにする	・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を十分に取、友達と考えを交流することで考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・振り返りやまとめを書くときに、必要な学習用語や文字数などの条件を整えて書く場を設ける。